

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.1



本の森を歩く 第26回

館長 吉永元信と読む浄瑠璃本の世界

本をまもる 保存・修復の道具

国立国会図書館で働いています Season2



新年のごあいさつ

国立国会図書館長 吉永元信

謹んで新春のお慶びを申し上げます。年頭にあたり、皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

利用者の皆様には、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ご理解ご協力を下さりありがとうございます。

昨年は、国立国会図書館にとって大きな転換点となった年と言えます。新しいビジョンとして「国立国会図書館ビジョン2021-2025」国立国会図書館のデジタルシフト」を発表して、今後の館の運営の方向性を示しました。このビジョンを策定したきっかけの一つには、コロナ禍において図書館利用の制約が続く中、デジタル化資料をリモートで利用したいという要望が国立国会図書館にも多く寄せられたことがあります。

ビジョンでは、今後5年間で当館がデジタルシフトを進めていく上で重要な7つの重点事業を挙げています。なかでも、「資料デジタル化の加速」は、国会サービスを始める様々な事業の基盤となるものです。昨年、国内刊行図書の大規模なデジタル化がスタートしたところですが、今後もその必要性を訴

えることにより、5年間で100万冊以上のデジタル化を目標に取り組んでいきたいと考えております。

また、デジタル化した資料のテキスト化も進めており、国立国会図書館デジタルコレクションで提供している資料のうち、古典籍等を除く全点についてOCRでテキストデータを作製中です。これを活用することにより、画像データの形ではデジタル化資料を利用できない視覚障害者等の皆様に対して、テキストデータを提供することも検討しています。そのような「読書バリアフリーの推進」も重点事業の一つです。国会向けのサービスにおいても、デジタル化、テキスト化のメリットを生かして、より高度な立法補佐活動を行っていく所存です。

ほかには、「インターネット提供資料の拡充」に関して、昨年6月に公布された改正著作権法によって、絶版等により入手困難となっている資料を、図書館等に加えて個人にまで送信できるようになります。現在、サービスの開始に向けて、関係者との協議を行っているところです。

さらに、「デジタル資料の収集と長期保存」の関係では、現在、無償かつDRM（技術的制限手段）が付されていない電子書籍・電子雑誌を収集対象としておりますが、有償のもの収集については、昨年3月、当館の納本制度審議会で答申²が示されました。この答申に沿った形で、令和5年から有償の電子書籍・電子雑誌の制度収集を実現するため、関係各位のご理解が得られるよう努めております。

昨年の夏、国立図書館長会議³にオンラインで参加いたしました。各国の国立図書館長と、「不確実性・リスクとチャンスに国立図書館はどのように対処するか」というテーマのもと、新型コロナウイルス感染症や自然災害などに対してどのようなリスクマネジメントをすべきかを議論しました。リスクマネジメントとは、マイナスへの対処のみを行うものではなく、リスクの中からチャンスを見つけるものでもあります。新型コロナウイルス感染症は、これまでに経験したことのない危機であるため、当館でも試行錯誤を重ねながら対応してきましたが、その困難の中でデジタル

シフトを進められたことは成果であったと思います。

今後、デジタルシフトが進展してゆく中で、リアルとヴァーチャルな情報が共存する図書館はどうなるのか、という課題がありますが、少し前によく言われた「場としての図書館」という言葉を思い出します。物理的な場としての図書館を豊かに構想することが引き続き重要であると思いますが、また、来館しないで図書館を利用するのが次第に当たり前になってくるかもしれません。

当館でシステム運用を担当しているジャパンサーチ⁴は、図書館だけでなく、博物館、美術館、大学など、様々な分野のデジタルアーカイブが連携することで、我が国が保有する多様なデジタルコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できる基盤を提供しています。例えば、全国のデジタルコンテンツを利用して、電子展示会用のウェブページを簡便に作成する機能などもあり、教育、研究、地域情報発信など様々な場面で利用されはじめています。ジャパンサーチを推進することにより、オンラインの世界での当館の新たな役割を見

出せないものかと思えます。

一方で、人間は社会的動物であり、コミュニケーションを求めていますし、人と人が交流することによって自身の知的関心も高まります。コロナ禍で人と物理的距離を置くことが日常のルールとされ、その弊害として人々の孤立化が懸念されています。対面でもオンラインでも、人と交わりながら「知」を交流させていく。図書館はそうした新しいスタイルの場を提供できるのではないのでしょうか。ウィズコロナの中でも、リスクをチャンスにかえるような希望を持ち続けたいと思います。

本年も、皆様のご支援とご協力をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

- 1 光学文字認識 (Optical Character Reader)
- 2 納本制度審議会答申「オンライン資料の制度収集を行うに当たって補償すべき費用の内容について」(令和3年3月25日) <https://www.rndl.go.jp/jp/collect/collect/council/s_toushin_8.pdf>
- 3 CDNL (Conference of Directors of National Libraries)
- 4 <<https://jpssearch.go.jp/>>

国立 国会 図書館 月報

NO. 729
JANUARY 2022

CONTENTS

新年のごあいさつ

30
NDL
TOPICS

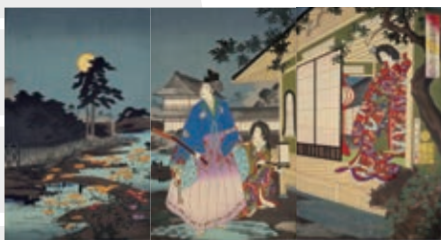
3 「完全なブックマン」による東洋の手漉製紙の研究
—Old papermaking in China and Japan—
今月の二冊 国立国会図書館の蔵書から

8 本の森を歩く 第26回
館長 吉永元信と読む浄瑠璃本の世界

18 本をまもる 保存・修復の道具
③プレスする

26 国立国会図書館で働いています Season2 no.4

31 数字で見る国立国会図書館



表紙：「牛若丸浄瑠璃姫之館忍図」楊州周延 画 菅谷与吉 明治19 [1886] 錦絵 (35.5×23.9cm)
3枚続 (〔武者无類外三枚続〕画帖) 所収
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1301434>

「完全なブックマン」による東洋の手漉製紙の研究 —Old papermaking in China and Japan

金森健太郎



冒頭ページと文字の標本。

Old papermaking in China and Japan
 by Dard Hunter, Mountain house press, 1932, 71 pages :
 illustrations, (part mounted ; part colour ; including map), plates
 (part mounted, colour, folded) facsimiles, mounted samples (part
 folded) ; 43 cm< 請求記号 YP51-B519>

見慣れた「本」とは明らかに異なるこの資料、「紙」の迫力を感じます。

ダード・ハンター (Dard Hunter 1883・1966) による *Old papermaking in China and Japan* は、ほぼ A2 判大の透かしの入った二つ折り手漉き紙で構成されています。裁断や製本は施されずに丈夫な外箱に収められ、紙や植物の断片(標本)が貼られています。本書は原稿の執筆はもちろん、活字の設計及び制作や組版、そして製紙から印刷等、本を作り出すほぼ全ての作業を著者自身が一人で行ったとされており、1932年に200部限定で刊行されました。

ハンターは1883年に米オハイオ州で生まれました。10歳か12歳の頃、父親の所蔵していた(中には15世紀のものもあったらしい)古書に触れ、破損したページなどは手ずから補修していたようです。

17歳の頃に父親が経営、編集する新聞社でデザイナーとして働き始めます。その後ニューヨークのアーツ・アンド・クラフツ運動コミュニティであるロイクロフトに関わり、手仕事によるデザイン及びクラフトへの造詣を深めました。アーツ・アンド・クラフツ運動とは1880年代のイギリスを発祥とするウイリアム・モリスが主導したデザイン運動で、産業革命による工業生産や大量生産

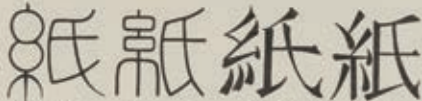
「紙」という文字の成り立ちについて解説されたページ。ここで見られるハンターの製版へのこだわりを感じるこの特徴的な台形の文字組みは、本書に繰り返し登場します。

OLD PAPERMAKING IN CHINA AND JAPAN 17

with the stylus radical 聿 (yü), before mentioned, which becomes 筆 (pi), meaning a bamboo pen, a pencil, to write, to compose, drawing, penmanship, and other terms of a like nature.

The number of characters in which the bamboo radical 竹 is employed is significant and bears out the idea that bamboo played a conspicuous part in ancient Chinese writing materials, in the keeping of records, and numerous matters pertaining to scholarly and bibliographical pursuits.

Bamboo tablets for the preservation of writings were probably used as late as 126 A. D. According to the Pen-t's'ao-Kang-mu, silk was used as a writing substance during the Tsin and Han Dynasties. It is probable that the character 紙 (chih), which is now used to denote paper, was coined originally for this



The Chinese character for paper. The first two drawings show the ancient seal character in which the silk cocoon pictograph is readily perceived. The third example is the script adaptation of the seal symbol, while the fourth depicts the printing character.

silk writing material as the symbol is made up of the radical 糸 (ssü), meaning raw silk, and the radical 氏 (shih), denoting a family. The early seal form of this silk root or radical reveals a pronounced pictograph 象 of two silk cocoons joined together by a thread, with straggling filaments below. The seal character 氏 of 氏 (shih), according to the Shuo Wen shows a pictograph of an overhanging cliff on the mountainside. Apparently the silk radical 糸 was used but little in any other characters relating to writing materials or ancient books or scrolls. It is found, however, in the character 編 (pien), meaning to compose, books, records, etc. Also the silk 糸 and bamboo 竹 radicals form 纂 (tsuan), meaning to compile a work, a resume, a collection of writings. The 紙 character must not be confused with 純 (huan), meaning white or plain, as white silk, or with 緘 (min) denoting a fishing net.

As before stated, it is not possible to determine just when certain characters came into use, but the two Chinese characters now used to convey the meaning of paper were probably applied to writing substances centuries before the invention of papermaking from disintegrated fibre. A less common character than 紙 now used for the word paper is composed of the same radical 氏,



「紙」の活字4種。最初の2つの絵は古代の篆書で、糸に当たる部首は連なる絹の繭をピクトグラフィ化しています。3番目は書き文字、4番目は印刷文字です。

150 1961037009



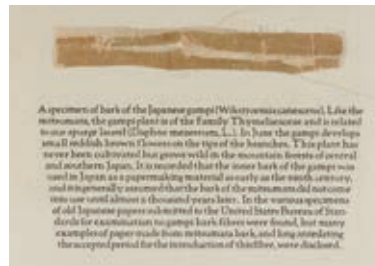
Bark of the Japanese paper mulberry (*Tosonmatsua papyrifera*).



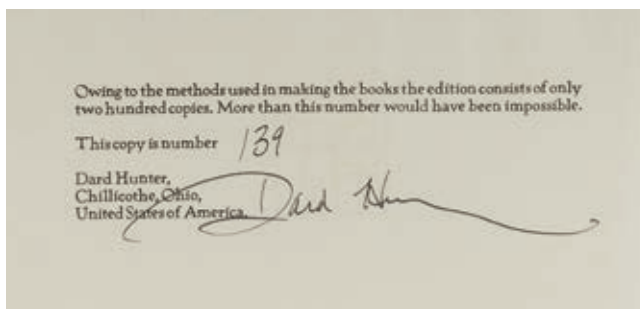
A specimen of bark of the Japanese mistletoe (*Edgromedusa papyrifera*).

Manuscripts in Japanese written upon paper made from mistletoe bark. Both examples are from the late seventeenth or early eighteenth century. The text of this book was printed before the various specimens of paper had been analyzed and on page 14 it is erroneously stated that mistletoe is a papermaking material common to use between Asia and America. These dates have been set forth by the Japanese, European and American authorities, but obviously they are incorrect.

(左から) 楮 (こうぞ)、ミツマタ、雁皮の樹の皮の標本。楮とミツマタのページには、それぞれの原料から作られた紙の標本も貼られています。



A specimen of bark of the Japanese gampi (*Wikstroemia catesarum*). Like the mistletoe, the gampi plant is of the Family Theymelaceae and is related to our grape leaves (*Edgromedusa*). In Japan the gampi develops small whitish berries (*Edgromedusa*) on the tip of the branches. This plant has never been cultivated but grows wild on the mountain forests of several and southern Japan. It is recorded that the inner bark of the gampi was used in Japan as a papermaking material as early as the sixth century, and in general it is assumed that the bark of the mistletoe did not come into use until almost a thousand years later. In the various specimens of old Japanese papers submitted to the United States Bureau of Standards for examination no gampi bark fibres were found, but many examples of paper made from mistletoe bark, and long antedating the accepted period for the introduction of the fibre, were included.



(上) 限定200部の内の139番目を表すサイン。ハンターは後に「もし本の発行部数が実際に物理的必然性によって限定されなければ、それは決して『限定』と呼ばれるべきではない」と真摯に述べています。また、限定された部数の中には製本された物もあったようです。

(右) 当館所蔵資料には販売時の別紙が付属しており、本書の出版に関する事情等が記載されています。例えば「この版に使用されている木版画はジュリアス・J・ランケスによって彫られた」とあります（どうやらハンターはこの本を作る全ての作業を完全に一人で行ったわけではなく、部分的には他人の手も借りているようです）。



への批判と共に中世の手工芸の復興を目指し、やがて世界各国に浸透し影響を与えました。

さらに20代におけるウィーンとロンドンでの仕事や体験を通して、紙漉きと活字作成を含めた一冊そっくりそのままの本作りを志向するようになります。

その後ハンターは私家版製作においてほぼすべての工程を一人でこなすことから、「ワシントン・ブックマン」あるいは「完全なブックマン」と呼ばれました。

しかし彼自身は、自分のことを活版印刷家や製紙家ではなく、「東洋及び西洋の手漉き紙の分野の素人研究者」として知られることを望んでいたようです。実際彼は世界各地の手漉き紙を調査、採集して回り、その成果を自らの私家版印刷所で出版した、紙の歴史研究の国際的権威として知られています。

本書は当初、近代東洋の手漉き製紙の起源から執筆当時に至るまでを一冊にまとめる構想の元で製作されましたが、ハンターが準備した史料や標本の膨大さ等からそれを諦め、手漉き製紙の初期数世紀のみを取り扱っています。

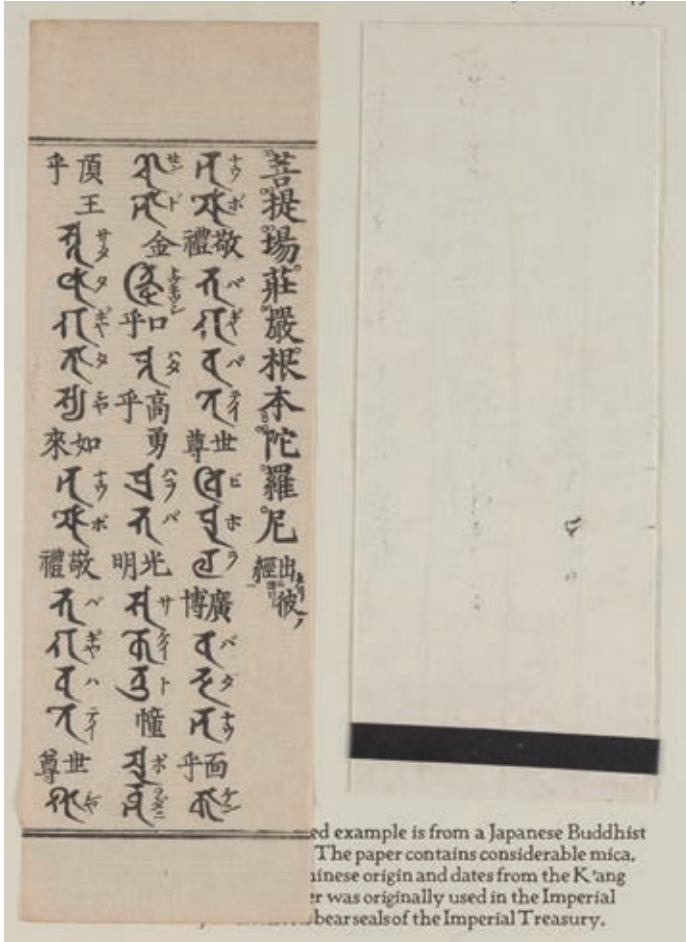
構成は二部に分かれており、前半は主に中

国について製紙以前からの発祥を文章で考察しています。後半は図版や標本を数多く紹介しており、中国と日本に関する事柄がほぼ半分ずつ取り上げられています。標本は一つとして同じ物は存在しません。

前半で製紙の発祥を遡るために、ハンターは漢字の発祥から考察を始めます。

竹という部首を含んだ文字や筆記に関する事柄を意味する多数の漢字から、古代中国の筆記用具、記録簿の保管、学術・書誌学上の多くの事項において「竹」が目立った役割を果たしていたと述べています。さらに秦や漢の時代には絹に筆記されていたと述べており、「現在、紙を表す文字として使われている「紙」は、生糸を意味する部首「糸」と家族を意味する部首「氏」を組み合わせた語であることから、この絹のために作られたものと考えられます」、つまり「紙」は当初は絹布を意味しており「糸」の初期篆書体は連なる繭とその下に垂れた糸を表現している、とのこと。

こうした説明に用いられる漢字はもちろんハンターの自作、しかも部首ごとの活字を用いて印刷されています。



ed example is from a Japanese Buddhist
The paper contains considerable mica.
inese origin and dates from the K'ang
r was originally used in the Imperial
bearseals of the Imperial Treasury.

楮の樹皮紙。写真では分かり辛いですが「紙にはかなりの雲母が含まれている」ためにきらきらと輝きます(右画像)。皇室で使用される用紙だったと記されています。



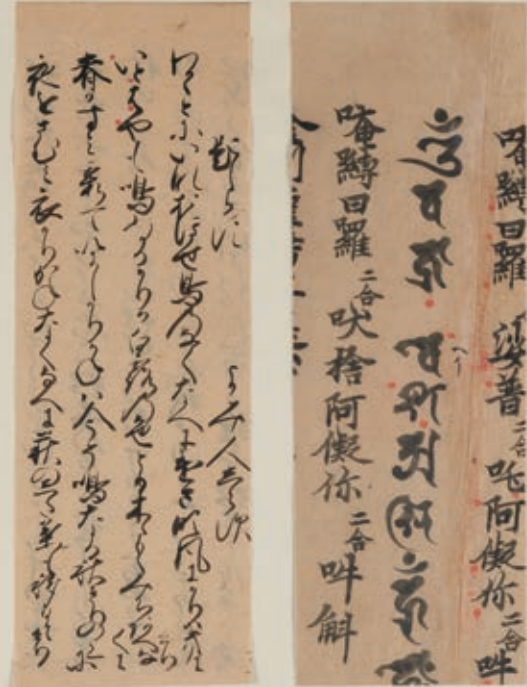
日本の刀に関する書物(1721年に刊行された神田白竜子の「新刃銘尽」と思われる)から採用された「楮の繊維のみで構成された和紙の標本」。「楮の皮は少ししか叩かれていないため、繊維の長さが長いものが多い」という説明があります。



世界の製紙の始祖として知られる中国後漢の宦官、蔡倫さいりんに関しては、「蔡倫が紙漉きの発明者ではなかったとしても、古布を紙漉きの材料として利用したのは彼が最初であろう」と書いています。彼の登場以前から廃棄物による製紙は行われていましたが、木の皮、麻の屑、古いボロ布……、これらを粉碎した繊維から紙を作ることを考え出したのは蔡倫でした。

なお、中国に比べると日本についての記述は多くはないですが、「日本古来の歴史書である『日本書紀』には僧侶である曇徴どんていが紙漉きを広めたという記述があり、曇徴が(日本における)発明者ではないかと考えられている」「推古天皇の息子である聖徳太子が楮しゆの木この皮から紙を作ることを試みて以来、この素材が紙の原料となった」と記述されています。聖徳太子は推古天皇の息子ではありませんが、聖徳太子が楮による製紙を奨励したことは史実であり、その後の日本の製紙の基礎となったと考えられています。

このような古い紙と本の歴史について、自ら活字と紙を古い方法で作製して本にするとは、ハンターの紙への情熱がうかがえます。1930年代といえば、大量印刷が可能で、現代でも主流のオフセット印刷や、活字と違って拡大縮小が簡便な写真植字がすでに発



Mitsumata bark papers. The specimen at the left is a section of a page from a Japanese manuscript: *Kokin-Shū*. The paper is remarkably fine and the calligraphy is beautifully executed. This manuscript dates from the fourteenth or fifteenth century. The specimen at the right is a part of a Japanese Buddhist scroll from the sixteenth century or earlier. These two examples of old Japanese paper show extraordinary craftsmanship and attest the durability of mitsumata fibre.

ハンターによれば、左の標本は「14世紀から15世紀の『古今集』のページの一部」、右の標本は「13世紀かそれ以前の日本の仏教の巻物の一部」で、どちらも原料にミツマタが用いられていると指摘しています。ミツマタは製紙原料としては17世紀頃から用いられたとされ、他の原料より1000年程採用が遅いのですが、ハンターは15世紀以前にもミツマタが用いられた標本が存在する、と主張しています。

○参考文献

- 谷村豊太郎「ダード・ハンター製紙博物館抜刷抄 遊歴と将来の見込み」『百万塔』(77) 1990.10<請求記号 Z17-41>
- 谷村豊太郎「ダード・ハンター製紙博物館抜刷抄(了) 東洋及び西洋の紙と本に関する覚書」『百万塔』(83) 1992.9<請求記号 Z17-41>
- 小林良生「ダード・ハンターの紙・印刷人生 ワンマンブックの作家・製紙の歴史研究家」『印刷雑誌』79(11) 1996.11<請求記号 Z17-467>
- ダード・ハンター 著、久米康生 訳『和紙のすばらしさ 日本・韓国・中国への製紙行脚』勉誠出版 2009<請求記号 PA477-J6>
- 久米康生「紙史研究の権威、ダード・ハンター」『百万塔』(134) 2009.10<請求記号 Z17-41>
- Dard Hunter Studios <https://www.dardhunter.com/>
※ URL の最終アクセス日：令和3年11月2日

明されていた時代です。ハンターは時代の流れと真逆のことを行っていたのです。

じつは本書を執筆した当時、ハンターはまだ実際に中国や日本を訪れてはいません。実地調査を行うのは、本書が刊行された翌年の1933年です。その際の記録として1936年に出版された *A Papermaking Pilgrimage to Japan, Korea and China* (日本語版『和紙のすばらしさ 日本・韓国・中国への製紙行脚』) では、他の二国に比して日本の手漉き製紙についての記述が豊富であり、「現在の日本の手漉きの紙は、すべての製紙工業のなかで驚嘆に値するすばらしい工芸といっても言い過ぎではない」と絶賛しています。

ハンターはその後も世界各地を回って手漉き製紙の研究を続け、合計16冊の本を執筆し、その内8冊が手作業で印刷されました。

収集した膨大な量の標本や関係資料類を基に、1939年にマサチューセッツ工科大学に世界で最初の紙の博物館 (Dard Hunter Paper Museum) を開館、ハンターはその館長となりました。その後二度の移管を経て、現在そのコレクションはジョージア工科大学にある博物館 (Robert C. Williams Museum of Papermaking) に収蔵され、今でも資料として活用されています。

館長 吉永元信と読む

浄瑠璃本の世界



義太夫節人形浄瑠璃に魅せられて約 50 年、館長 吉永元信が当館所蔵浄瑠璃関係資料とその魅力を紹介します。



■用語集

- ・太夫=芸能を行う人への敬称だが、ここでは義太夫節の語り手を指す。
- ・さわり=聞かせどころ。
- ・段=浄瑠璃の作品構成上の区切り。
- ・時代物=歴史劇。江戸時代よりも古い時代を舞台としている作品。
- ・世話物=当時の現代劇。
- ・道行=世話物で心中する二人の死出の旅が有名だが、それだけではない。目的地まで移動する様子を華やかに表現する場面で、多くの作品に存在する。長い演目の途中での息抜きの意味合いもあった。

上挿絵の出典：今昔操年代記 正本屋九左衛門 作 廣屋福三郎、天満屋安兵衛 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2606018>

■そもそも義太夫節人形浄瑠璃（文楽）とは

語りと三味線による「義太夫節」にあわせて人形が演じる、大阪発祥の伝統演劇。

人形をつかう芸能と、物語を口で語る芸能（『平家物語』が有名）とが室町時代頃に結びついた。「義太夫節」は 17 世紀後半に登場した竹本義太夫の創始によるもので、近松門左衛門の作品とともに人形浄瑠璃を芸術として確立させた。

「文楽」という言葉は、大正時代に唯一残った座の名前に由来する。

1955 年に国の重要無形文化財となった。現在は、1966 年に東京都千代田区に開場した国立劇場、1984 年に大阪市中央区に開場した国立文楽劇場で主に上演されている。

正本

浄瑠璃の台本を正しく写した版本。ある一節を抜き出したのではなくまるまる収録されているという意で、俗に「丸本」ともいう。稽古の定本として、また読み物として普及した。義太夫節では一丁あたり七行の「七行本」が一般的。

国性爺合戦

近松門左衛門作。1715年初演。中国人の父と日本人の母との間に生まれた和藤内(鄭成功)が明を再興するため活躍する。足掛け17か月のロングランとなり、低迷していた竹本座が復活した。



国性爺合戦 近松門左衛門 作 西澤九左衛門、鱗形屋孫兵衛<請求記号 191-453>

「今参のお供先。跡に引馬とらふのこま母を。たすけて孝行の名。を取口取国を取ほまれは。みこく本朝に。ふみまたけたるくらあぶみ。とらのせなかに打乗てゐせいを。千里にあらはせり」

和藤内は明に渡り、義理の姉である錦祥女が妻となっている甘輝將軍に味方になつてもらおうと、甘輝館へ向かう場面。道中、ただけしい虎を伊勢神宮のおれで懐かせ、家来を多数従える。



あやつり画番附 (15 ページ参照) より

当時、外国を舞台にしたスケールの大きな話をよく作れたと思う。日本に存在していない虎まで登場します。ちなみに、近松の作品は七五調じゃない詞章が多くとても語りにくい、でもそれが面白いんです。

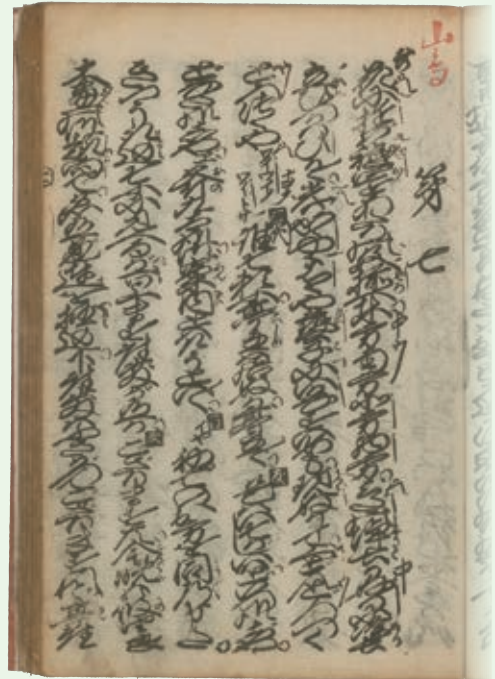
仮名手本忠臣蔵

竹田出雲、三好松洛、並木千柳の合作。1748年初演。三大名作の一つ。赤穂浪士の事件後47年目に脚色。当時は事件をそのまま取り上げることが禁じられていたため、太平記の世界に置き換えた。

よく習う演目です。どの場面も面白いですが、特徴的なのは、ほかの演目では上演しない大序（作品全体の最初の部分）。人形の演出が面白い。太夫の語りで自分の名前が出てきたらおもむろに動き出す、まるで人形に命が吹き込まれるみたいなんです。人形浄瑠璃の原点を感じさせます。

「花に遊ば、祇園あたりの色揃へ。東方南方北方西方。みだの浄土かぬりに塗立ひつかりひかく。光りか、やくはくや芸子にいかなすいめも。現ぬかして。くどんくどろつくどろつくやワイワイノワイトサ」

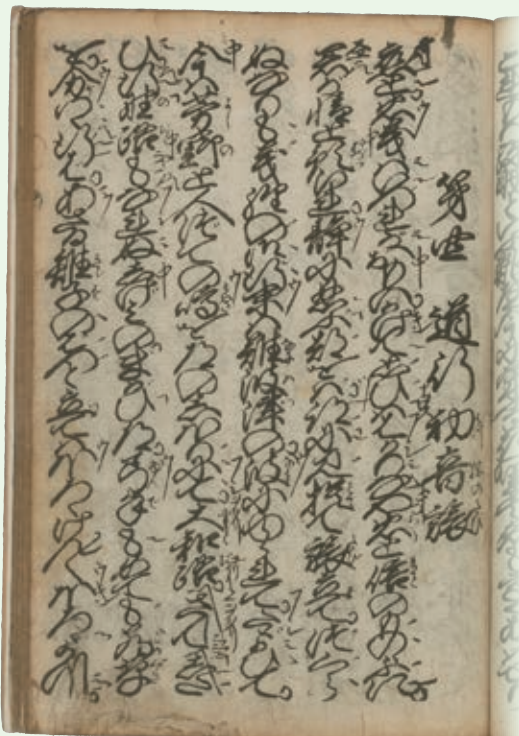
七段目。祇園の茶屋で放蕩三昧する大星由良助（大石内蔵助）の本心を探ろうと敵味方が入り混じる場面。歌舞伎でも有名。通常義太夫節は一人で語るが、この場面はにぎやかに複数人で掛け合いで語る。



仮名手本忠臣蔵 竹田出雲 [[ほか] 作 鱗形屋孫兵衛 [[ほか] 2名] <請求記号 912.4-Ta464k >

義経千本桜

竹田出雲、三好松洛、並木千柳の合作。1747年初演。三大名作の一つ。『平家物語』『義経記』などの先行作をふまえたうえで、滅亡したはずの平家の武將がじつは生きていた、狐が人間に化けて登場するなど脚色し、義経をめぐる人々の悲劇を描く。



「恋と。忠義はいづれがおもい。かけて思ひははかりなや。忠と信まことのものものふに。君が情と預られ。」

「道行初音旅」。吉野におちのびた義経のもとへ、満開の桜の下を歩く静御前。静御前が鼓を打つと、従者忠信があらわれ、二人は思ひ出話をしながら歩いていく。じつは忠信は狐の化身である。音楽、舞踊の要素が強く、華やかな場面。

これは道行の最高傑作！ よく練習しました。聴いている人も演奏する人も気持ちいいんです。

義経千本桜 竹田出雲 [[ほか] 作<請求記号 238-128 >

菅原伝授手習鑑

竹田出雲、三好松洛、並木千柳、竹田小出雲の合作。1746年初演。三大名作の一つ。流罪となる菅原道真を中心に、道真の養女と帝の弟との恋や、三つ子である梅王丸、松王丸、桜丸が敵味方になるなど、様々な人物の忠義と葛藤が描かれる。「せまじきものは宮仕へ」の詞章が有名。

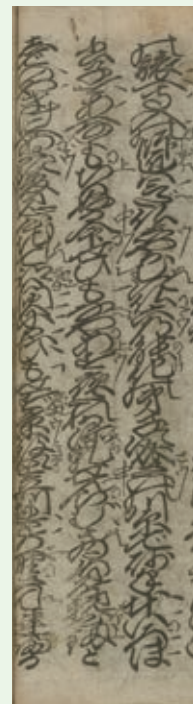
この浄瑠璃は、どの場面も重く面白い。本当に、ここまですごいのかっていうぐらい。仮名手本も義経も、三大名作はどれも素晴らしい。



小太郎の野辺送り、通称「いろは送り」の場面。中央が松王丸とその妻千代。

文楽浄瑠璃物語 竹本住太夫 著 正文館書店 昭和18
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1125740>

有名な寺子屋の場面（平安時代の設定だが、初演当時の風俗である寺子屋が描かれている）。寺子屋を経営する源蔵は主君である道真の子をかくまったが、道真を謀殺したい藤原時平から、道真の子の首を討てと命じられる。思いあまつて当日寺子屋入りした小太郎という少年の首を切る。時平の家臣で首実検を行いに来たのは松王丸。なんと小太郎は松王丸の美子で、道真に恩義がある松王丸は身代わりのために小太郎を寺子屋に入れたのだ。



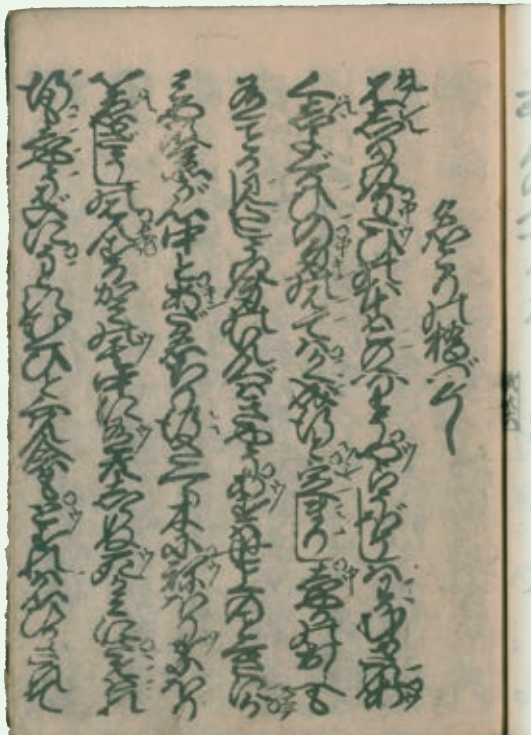
菅原伝授手習鑑 竹田出雲 [ほか] 作<請求記号 238-279 >

「いろは書きをあへなくも。ちりぬる命。せひもなや。あす夜たれか添乳せん。らむうめめ見る親心。」

心中天網島

近松門左衛門作。1720年初演。大坂網島で、紙屋治兵衛と遊女小春が心中した事件をもとにしている。治兵衛の妻おさんも登場し、義理と人情のしがらみが描かれる。

大阪の橋が次々と出てくるので、歩きたくなくなります。心中事件を聞いた近松が駕籠の中で想を練ったという逸話があって、「走り書き」という言葉で始まります。『曾根崎心中』の道行と双璧。それにまた、曲節もいいんです。



天の網島 近松門左衛門 [作] 山本九右衛門、山本九兵衛
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539993>

「道行名残の橋つくし。橋を順番に渡って、最後に網島の大長寺で心中する。」

「はしりかき。うたひの本はこのへりう。やらうほうしはわかむらさき。あくしよぐるひの。身のはては。かく成行と。定まりし。しやかのおしへも有ることか（中略）君をしたひてだざいふへ たつた」とび梅田ばし。跡おひ松のみとりばし。（中略）あのいたいけなかいがらに。一はいもなきし。みばし。みじかき物は我々が。此世のすまぬ。秋の日よ十九と。廿八年の。けふのこよひをかざりにて。ふたりのいのちのすてごころ。」



本朝廿四孝 近松半二 [[ほか] 作<請求記号 191-434 >

美しい場面! 華やかでうっとりします。諏訪の大学で図書館学を教えていたのですが、諏訪湖のほとりに八重垣姫の像があります。諏訪法性の兜を掲げた非常に大きな像です。

十行本

正本の一種だが、一丁あたりの行数を十行と増やして、丁数を少なくしたもの。稽古のための書き込みはしにくい、かさばらない利点がある。

本朝廿四孝

近松半二、三好松洛、竹田因幡、竹田小出、竹田平七、竹本三郎兵衛の合作。1766年初演。武田信玄と上杉謙信は対立しているように見えて、じつは齋藤道三が共通の敵であるという設定で、様々な謀略とどんでん返しが多い作品。謙信の娘である八重垣姫は人気のあるキャラクター。



人気浄瑠璃を題材にした双六に登場する八重垣姫。手には兜が。当世流行浄瑠璃外題尽巡双六宗広画 朝倉藏版
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1310629>

「十種香」の場面。八重垣姫は信玄の嫡子勝頼の許嫁であり、死んだ勝頼を供養するため十種香という名香を焚いている。そこに、じつは生きていた勝頼が現れる。また、次の場面では、勝頼に迫る危険を知らせるため、八重垣姫が武田信玄秘蔵の諏訪法性の兜に祈ると、狐の霊力がのりうつつり、姫は氷の張りつめた諏訪湖を一気に渡る。

五行本

正本と異なり、一部分を抜き出して一丁あたり五行で印刷したもの。太夫が舞台で語る「床本」(17ページ参照)は見やすいように五行で書かれている。それを印刷したものという位置づけで、稽古用の五行本が多く出版された。

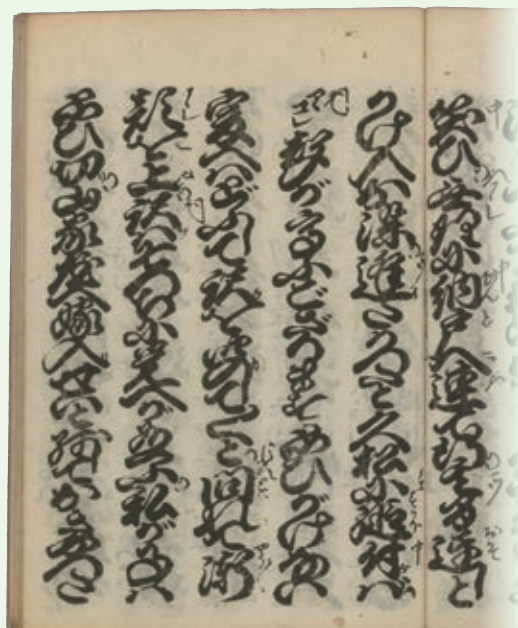
「其間遅しとかけ入お染。逢たかつたと久松に縋付ば。」

新版歌祭文

近松半二作。1780年初演。1710年に起きた、油屋の一人娘お染と丁稚の久松の心中を扱った作品。お染久松ものとしてすでに先行作があり、「新版」は新作の意味。

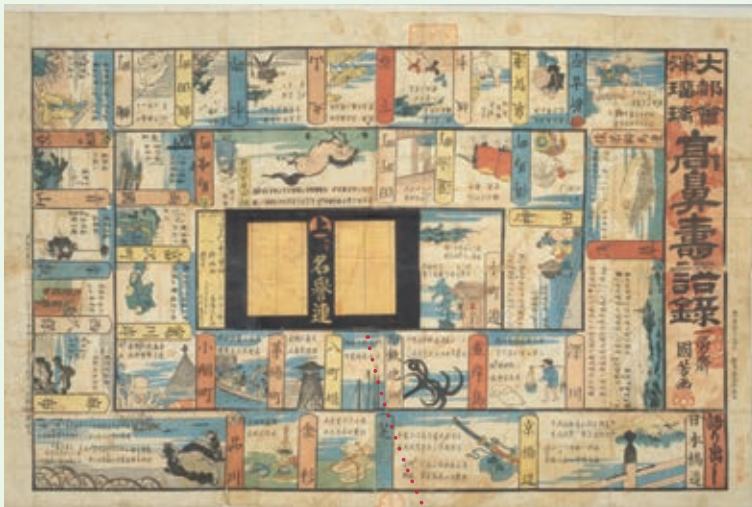
素人が三味線で一番最初に習うのが、この段切(段の終わりの部分)の俗に「野崎」と言われる部分。わかりやすいし、さわりがいっぱいあります。「義太夫さわり集」などに必ず出てきます。

「野崎村の段」。久松は集金の金をだまし取られて故郷野崎村に帰される。久松の養父久作は、久松を妻の連れ子であるおみつと結婚させたがつており、おみつも喜ぶが、そこにお染が訪ねてくる。お染と久松はすでに心中を決意しており、察したおみつは身を引くのだった。



新版歌祭文 上の巻 野崎村の段 [近松半二] [作] 加嶋屋清助<請求記号 912.4-Ti2382s >

双六



大都会浄瑠璃高鼻寿語録

歌川国芳画 鑑島藤秀軒蔵版

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1310573>

江戸の素人の浄瑠璃サークル（「連」）が双六仕立てで紹介されている。それぞれのマス目には所属している素人のうち特に名の知られた人の芸名も。「上がり」のマス目を開くと鼻高々な太夫と三味線弾きがあらわれ、素人のお稽古として義太夫節や三味線が大人気だったことがわかる。「禁賣買不出連外」とあり、内輪で配布したものと思われる。



上りのマスを開けると...

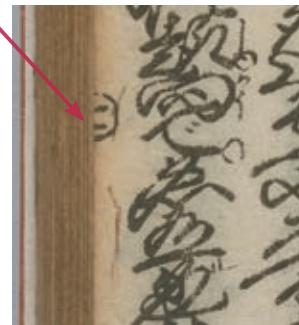
■浄瑠璃本ワンポイント

浄瑠璃本のくずし字はほかのくずし字と違う独特のもの。ややつぶれた形になっている。

段数が、その段が始まる丁の小口に書いてあるので、探しやすい!

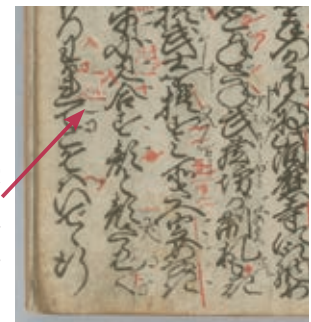


きゆうくつ...



仮名手本忠臣蔵
(10 ページ)

朱は三味線の演奏のための記号。本の持ち主が稽古のために書き込んだものと思われる。



段の後ろのほうになると、行数を変えずになるべく多くの詞章を一丁におさめるため、さらに字を変形させて字配りを変えているものがある。上左画像は段の最初、上右画像は段の最後の方の丁。

ひらかな盛衰記 文耕堂 [[ほか] [作] 吉川宗兵衛、山本九兵衛 [元文 4 (1739) 初演] <請求記号 238-203 >

一谷嫩軍記 並木宗輔 [[ほか] 作 [宝暦 1 (1751) 初演] <請求記号 238-150 >



番付・絵尽

番付は、宣伝のために町に貼られたり、最良筋に配られたもの。座元名、上演タイトル、出演者の名前が掲載されている。絵尽は、見どころを絵にして、ストーリーを説明するもの。上演が始まってから売られ、観劇後の記念や、観劇できない人などが舞台を想像するために購入した。

操人形番附

人形浄瑠璃の番付や絵尽を集めた資料。
掲載箇所は、1782年に国性爺合戦が上演された際に刊行された絵尽の表紙。登場人物が描かれている。
<請求記号 126-116 >

芝居諸芸題集

人形浄瑠璃や歌舞伎の番付や絵尽を集めた資料。人形浄瑠璃では、全盛期に人気だった竹本座、豊竹座、両方のものを含めて集められている。初演のものもあり、当時の配役がわかる。
掲載箇所は本朝廿四孝。一つの見開きに場面が複数描かれている。
<請求記号 106-246 >





あやつり画番附

人形浄瑠璃の番付を集めた資料。

掲載箇所は、竹本座で1750年に国性爺合戦が上演された際の番付。持ち場ごとに太夫と三味線の名前が書かれている。また、タイトルには「父は唐土／母は日本」という角書が付されている。

[享保頃] <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533295>

大正期の資料

浄瑠璃素人講釈

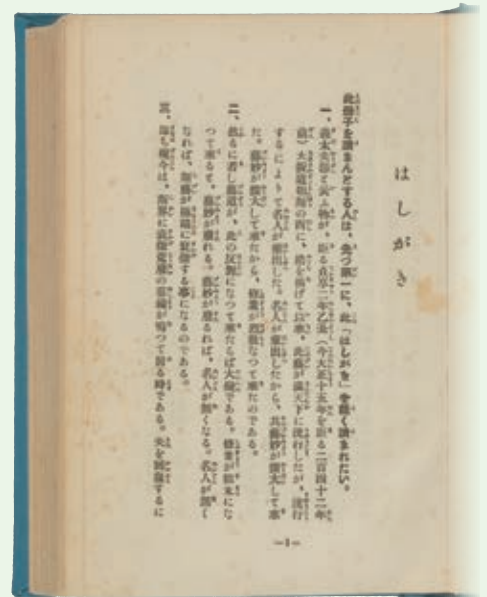
今は録音ができるから便利になりましたが、それでも基本は口伝です。謡曲は、謡本の胡麻章という記号を見ればある程度は再現できるらしいですが、浄瑠璃はできない。だからこういう資料はとても貴重。

杉山其日庵 著 黒白発行所 大正 15
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1016656>
 (モノクロ画像)

此君帖

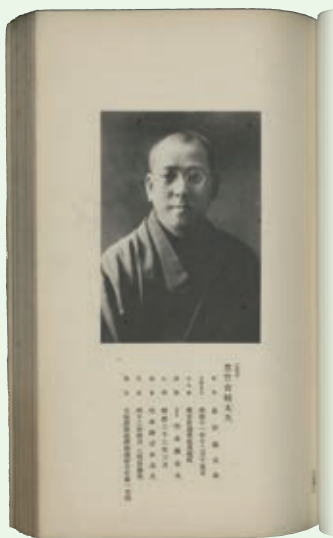
竹本義太夫にはじまる著名な太夫と三味線の肖像、プロフィール集。高級なコロタイプ印刷で刷られ、和装仕立てである。

橘米吉 編 富久積会 大正 12
 <請求記号 192-152 >



在野の国家主義者杉山茂丸による、浄瑠璃の芸論書。自身の論説誌『黒白』に別名で連載したものを一冊にまとめた。2004年に岩波文庫で復刻された。

「即ち現今は、斯界に衰微荒廢の暮鐘が鳴つて居る時である」と嘆き、そのためには修行するしかないが、たよりとなるものが口伝しがなく、「口移しが、古代には、名人も澤山あつたであらうが、庵主（注：杉山）等は、其名人の口移しには、接する事が出来ぬ譯であるから」、現在の師匠たちから聞いた話をここにまとめるので参考にしてほしい、と述べる。現在は上演されていない演目も多い。この演目はこのように語るべき、この太夫が上手かった下手だった、など、実演に関する貴重な記録となっている。



掲載箇所は二代目豊竹古靱太夫、のちの豊竹山城少掾。心理描写や解釈によって、義太夫節に近代的リアリズムを導入した。



——関西ご出身ですが、浄瑠璃との出会いは幼少期でしょうか？

劇場での舞台を見たのは、ここに就職してからです。国立劇場が近く、行きやすかったですからね。

でも、子供のころ関西にいたので、テレビで放映しているのを目にすることはありました。文楽座が朝日座に変わった記憶は鮮明に残っています。15、6才の時でしょうか。昔は道頓堀にたくさん劇場があったのに、戦後、上方歌舞伎も、文楽もかなり低迷してしまっただけです。そうしたことも一因で国が本

腰を入れて、東京に国立劇場を、大阪に国立文楽劇場を作り古典芸能へのテコ入れを始めました。

見始めた時に、義太夫教室の募集があったんです。面白そうだな、と思って入会しました。

——いきなり教室に入るってかなり熱心ですね。

いや、どんなものかと軽い気持ちで。語りと三味線の両方を教えてもらえました。関心を持ってもらうための教室なんだろうが、最後に文楽の鶴澤重造師が教えに来てくれました。その説明がわかりやすく、人物の語り分けと、いろいろの教えてくれました。

——語り分け？

浄瑠璃は、地の文と人物のセリフがなまぜになっています。日本の語り物の歴史はみんなそうです。太夫が全部語って、普通の演劇なら個々の俳優がセリフを話しますが、浄瑠璃は話しません。しかもそれが人形だという、面白い芸能ができたわけです。

1人の太夫が、老若男女いろんな人を語り分けるから、そのやり方が難しい。最初のうちは首を振りなさいっていう指導でした。たとえば「父様や母様に別れてから」と語るとき、「父様や」ではお父さんを思い浮かべて右を向き、

「母様に」ではお母さんを思い浮かべて左を向くとかね。それに、「情を語れ」という奥深さを教わって感激して、教室が終わった後も、お師匠さんについてもう少し、ということになった次第です。

——情を語る？ 感情ということでしょうか。

今の言葉では難しいですが、強いて言うなら「人のこころ」でしょうか。義太夫節の真髓とでもいうものです。

——真髓！ ところで邦楽の音階ってとつづきにくい感じがしますが……

邦楽は西洋の音階とは違うんですよ。西洋の音楽はドの音だったらドびつたりの音を出しますが、邦楽の音階には

幅があります。きれいな音とかはあまり関係ないんです。

——きれいな音が求められているわけではないんですか？

絶対音感がある人には気持ち悪いかもしれないですね。語りには理知的な語り、豪快な語り、美声の語りなどいろいろなあって奥が深い。「情を語る」ことが第一だから、きれいだから良いとは限らない。師匠に「お前の語りじゃ泣けない」としごかれた、といった話が多いぐらい。三味線との関係もそうで、三味線と完全に合わせて語っても面白くもなんともないんです。「三味線から離れる」と言われますね。

——難しいですね……！ 音の楽しさのほかに、内容はいかがでしょうか。

筋に違和感はないですか？ 『菅原伝授手習鑑』（11ページ参照）での、自分の子どもを主君の子どもの身代わりにするくだりなど、かわいそうです。

今の公演プログラムの解説にも「現代

の感覚からすると違和感があるかもし
れませんが」と言った趣旨のことが書
いてあることがあります。当時の儒教
的倫理感からすると、まず主君への忠
義。次に親への孝行。その次に男女の
愛や子どもへの情。序列がはつきりし
ているわけです。ですから心中などが
起きる。恋と忠義ははずれが重いか。
「忠」がやっぱり第一なんです。個人の
感情としては、人を好きになるとか、
子どもを失って悲しいとかがあるんだ
けれど、「忠」「孝」とぶつかりあう。
だから庶民に愛されるんでしょうね。

——当時の人にとってはリアリティが
あったんだろうと思うと、切ないです。
でも、今だって全くないわけではない
ですね。

当時は子どもの死亡率が高かったとか
今と違うことは多いですが、現代でも、
理不尽なこと、不条理なことがあると
いう根っこところは普遍的。新作文
楽はそういうところから生まれるか
もと思ったこともありましたが、
今はすっかり古典芸能になりましたが、

昔はカラオケみたいなものだったんだ
と思います。素人のお稽古が大流行し
て、みんなが口ずさんで。「まだ青い素
人（白）義太夫玄人（黒）がって赤い
顔して黄な声を出し」という狂歌があ
るように、落語の「寝床」の世界なん
です。

——義大夫節を語るのが好きだけど下
手な大家さんがいて、店子とか誰も聞
いてくれない、という話ですね。司馬
遼太郎の『菜の花の沖』には、遠く離
れた土地の人と浄瑠璃のフレーズでや
りとりして喜ぶ場面がありました。

そういうことは大いにありますね。
浄瑠璃は庶民の共通語。「時代物」のド
ラマチックな筋立てと構成美。「世話物」
の義理と人情と男女の恋の葛藤。演劇
的にもそれぞれに素晴らしいですが、
最大の魅力は詞章の美しさ。とにかく
美しい。詞章にのめり込む。それに、
知らない言葉がたくさん出てくるんで、
いろんな古典から引用されていて、
きちんと調べていくと、日本文化、文
学の伝統がわかります。

——本歌取り^③みたいなことでしよろ
か？

そうですね。声明^③や、平安時代の和歌、
漢文、平家物語、能、ありとあらゆる
教養が流れ込んでいます。江戸時代の
人の教養の高さはすごい。もちろん素
人が全員理解していたかどうかはわか
りませんが、それを趣味でやっていた。
現代でも、解説してくれる本がないの
で、私は自分で調べました。私のお師
匠さんがそういうことが好きだったか
らありがたかったです。

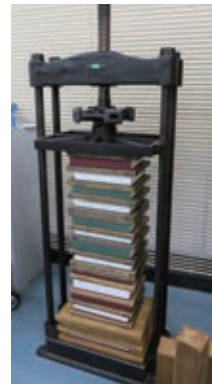
当時の歌舞伎には作者部屋というのが
あって、そこにネタ本がたくさんあっ
たようです。作者のレベルも高かった
んでしょうね。

——いろんな知識が浄瑠璃に流れ込ん
で、それが現代にまで継承されている
んですね。美しい詞章の意味や背景も
理解して、しかも自分で語るってすご
く充実感がありそうですね。
それはもう。底がないって感じですよ(笑)。



道頓堀の角座前にあった天牛書店で購入した床本
(8ページ、16ページで手にしているものも同様)。
床本とは、上演の際に太夫が見る台本。太夫が手
書きする。語る前に床本を掲げて一礼する動作を行
う。

1 1993年。
2 和歌や連歌を作る際に、古歌などの一部を意
識的に取り入れる技法。
3 仏教儀式で経文を朗誦する芸能。広い意味に
おいて日本伝統音楽の源流と言える。



本をまもる

保存・修復の道具

③ プレスする



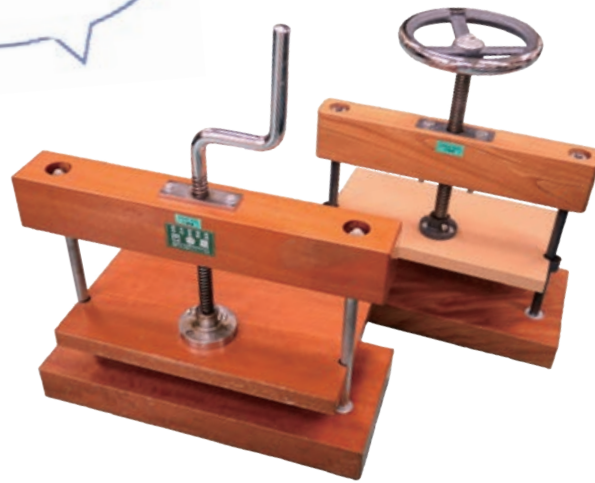
国立国会図書館では、所蔵する資料の永続的利用を保証するために、デジタル化などの媒体変換、防災、保存環境の整備、修復といった様々な保存活動を行っています。

その活動で大きな役割を担うのが、収集書誌部資料保存課です。資料保存担当の専門職員が、専門的な判断と技術を必要とする補修・修復を資料の特性や状態に応じて行っています。また、書庫の環境管理や虫菌害対策などの業務にも当たっています。

資料保存課で保存・修復のために使用する「道具」にフォーカスをあてたシリーズ第3回。ほんの一部ではありますが、文化的資産を残していく活動の様子を垣間見ていただければと思います。



取っ手を回すと上板が上下します。



卓上に置く小型のプレス機です。
取っ手の形状により、「角型」「ハンドル型」などの種類があり、取っ手の締め具合によって、締める圧力を調整できます。

● いろいろな用途に使います



製本し直す際などページを1枚1枚はがして解体したときに、どうしても出てしまう紙の歪みを、圧力をかけて平らにします。



洋装本の背の部分を固定する「背固め」という作業の際には、横置きにして使用します。

スタンディング プレス

手機械では少量の資料しかプレスできません。大量の資料や、大型の資料をプレスする場合は大型のスタンディングプレスを使います。

鉄製で頑丈にできているので、高い圧力でプレスすることができます。



油圧 プレス

さらに強力な接着が必要な場合や、折り癖や歪みを取る場合などには、より圧力のかけられる油圧プレス機を使います。たとえば新聞の縮刷版をハードカバー製本にするときなどに使います。

ほかのプレス機はすべて手動ですが、これは油圧ポンプの力で強力にプレスできます。



圧力の強さは数値で設定します。
締め終わると自動で止まります。



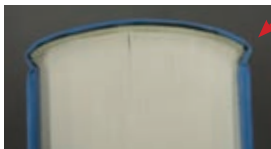
締め板



資料をプレスする上で無くてはならない物が締め板です。プレスする際には、資料を保護し、力が均一にかかるように、必ず1冊ずつ締め板で挟みます。締め板は資料の大きさに合わせて大きさなどを使い分けています。

● 耳出し (バックキング)

まるぜ丸背（背が丸みを帯びた製本様式）の資料の背の部分には、表紙の厚紙と高さを合わせるための出っ張り（耳）があります。これを手作業で作る場合は、プレス機に挟んで行います。使うのは手機械（19ページ）です。



耳とは、このことです。



バック板いたという金属のガイドが付いた板。角度がついています。



耳がきれいに出ました。



バック板に資料を挟んで、手機械で固定し、背の部分を金槌で叩いて耳を出します。

重石

いろいろ



かなり重たいです。

漬物石

修復のさまざまな場面ではいろいろな重石を使い分けています。この重石は特殊なものではなく、ホームセンターなどに売っている漬物石です。中にはコンクリートが入っています。見た目よりもずっと重く、一番大きなもので、8.5kgあります。プレス機に入らないような大きな資料のシワ伸ばしをするときに、縮板の上に乗せてプレスします。

たとえば、大きな地図を補修するとき

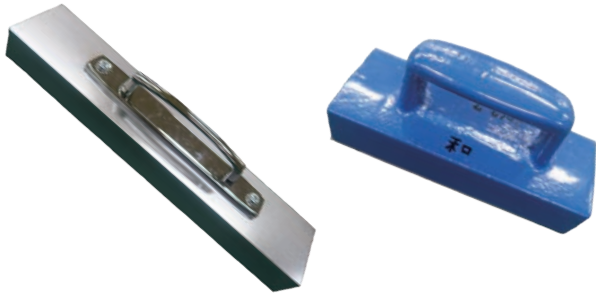
大きな地図は、折りたたまれて「折図」の状態です。破損箇所の補修の前に、まず折れやシワを伸ばしてなるべく資料を平らにします。



全体に軽く水分で湿り気を与えてから、「ろ紙」に挟んで、なるべく平均に重さが行きわたるように、上から板や重石をたくさん乗せてプレスします。一昼夜以上おいて、しっかり乾かしたのちに重石を外し、補修します。

細長い 重石

地図の折図は、折り目が破れている場合が多いです。折り目の破損を補修する時には、細長い重石が活躍します。また、縮板ではなく、細長いアクリルの定規を使います。

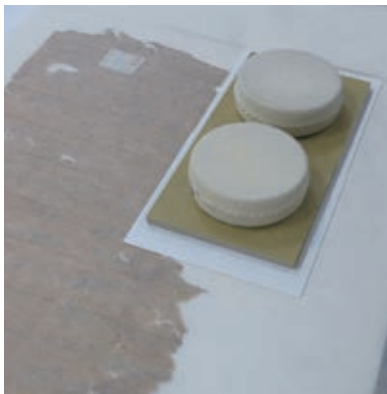


重石の裏には保護のために「ろ紙」を貼っています。



带状の和紙に糊を付け、折り目に貼り、不織布と「ろ紙」、長いアクリルの定規を置き、その上から重石を乗せてプレスします。こうすることで、波打たず平らに乾かすことができます。

たとえば、卷子を補修するとき



卷子の欠損箇所に糊を少量塗って和紙を貼り、プレスして接着・乾燥させているところです。「ろ紙」の上には厚手の板紙を置き、均等に圧がかかるようにしています。

小さい 重石



小さな破損を補修して乾燥させる際に小さい重石を置きます。こうする事で乾燥時のページの波打ちが防げます。

鉛なまり

玉だま



資料に沿ってフレキシブルにプレスをすることができます。



二重のチャック袋に入れ、さらに白い布で作った袋に入れています。係みんなで手作りしました。

中身



この重石は、手作りです。白い布袋に、直径2mmの鉛玉が入っています。この鉛玉は、散弾銃の弾としても使われるものです。絵巻物の絵具の部分や書簡など、紙が柔らかい資料の小さな補修箇所をこまめにプレスするのに向いています。美術館や博物館関連でも、使用されることがあります。

● いろいろな用途に使います



書簡の細かい破損箇所を和紙と糊で補修し、鉛玉が入った重石を乗せて、接着・乾燥させているところです。



展示の時にも、重石を使用することがあります。支持具の中に重石を入れ、支持具が浮き上がったりしないように支えています。

※ここにあげた道具とその使い方はほんの一例です。



連続講演 DX時代の図書館と児童ヤングアダルトサービス



DX時代に、図書館の児童ヤングアダルトサービスはどのように変化する／しないのでしょうか。

公共図書館、学校図書館、バリアフリーという3つの視点から、有識者3名による講演をYouTubeで配信します。



URL : <https://www.kodomo.go.jp/event/special/dxlecture.html>

問い合わせ先 国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課協力係
メールアドレス : kenshu@kodomo.go.jp
電話 : 03-3827-2053 (開館日の9時30分~17時)



ここから
アクセス



国立国会図書館
国際子ども図書館
International Library of Children's Literature, National Diet Library

国立国会図書館で働いています

Season2

no.4

目的を見失わないこと。
日々の仕事の中で、
常に心がけてます



収集・書誌調整課収集企画係でどんなお仕事をされていますか。

一言で言うと、国立国会図書館（NDL）がどのような資料を集めるかを示す方針を決めています。どのような資料をどのような優先順位で集めるか、とか。図書館の資料は、あらゆる図書館サービスの基盤になります。資料収集の方針は、NDLが果たすべき使命や役割と密接に結びついている重要なものです。

NDLの収集について全部を網羅したものを作りますか？

はい。NDLが集める資料の範囲や優先順位を決めています。基本的に、国内で発行された出版物は、納本制度^①に基づいて集めていますが、外国で発行されたものについては、購入することが多いです。このほかにも寄贈、国際交換など、資料によっていろいろな収集方法があります。方針では、こうしたいろいろな方法を集める資料を対象としています。たとえば、外国の資料については、

NDLの目的に応じた主題や分野のものを重点的に選びますよ、とか。具体的には議会資料や法令資料、日本に関係する資料など。最近では、同じ内容で冊子とデータベースや電子ジャーナルなどの電子情報があれば、電子情報を優先しますよ、という方針に基づいて、外国のデータベースや電子ジャーナルなどを積極的に導入しています。

改定も必要ですよ。

方針やルールは作りっぱなしではなくて、維持管理も大事です。たとえば新しい形態の出版物が出てくるとか、世の中の動きに合わせて、定期的に見直します。インターネット資料とかオンライン資料とか、NDLで新しく集める資料の制度を整えれば、それに合わせて方針の範囲も広げる必要があります。あとNDLのビジョン、今だと「国立国会図書館のデジタルソフト」ですね、こうしたNDL全体が目指す取組や方向性にも応じて、収集の方針も適宜見直

します。

依って立つものを作って、維持しているんですね。

みんながちゃんと同じものを目指して取り組んでいけるように、ビジョンや方針、明確な目標や目的を共有することは大切です。とくに、NDLみたいな大きな組織、国の図書館にとっては、何のために、誰のために、何に取り組むのか。資料を集めることについても、おなじだと思

柴田 洋子 収集書誌部 収集・書誌調整課 収集企画係長

平成16 (2004)	年4月	書誌部	書誌調整課	総括係
平成17 (2005)	年4月	書誌部	書誌調整課	データ標準係
平成19 (2007)	年4月	関西館	電子図書館課	研究企画係
平成23 (2011)	年10月	電子情報部	電子情報流通課	標準化推進係長
平成26 (2014)	年4月	収集書誌部	収集・書誌調整課	書誌調整係
平成30 (2018)	年4月	収集書誌部	収集・書誌調整課	書誌調整係長
平成30 (2018)	年10月	収集書誌部	収集・書誌調整課	収集企画係長

① 出版物を公的機関に納入することを発行者等に義務づける制度で、日本では国立国会図書館法により、国内で発行されたすべての出版物を国立国会図書館に納入することが義務づけられています。

誰のために、どういった方向性で、どんな資料を集めるのか。このポリシーを共有することで、NDLとしてぶれない資料収集ができる。方針やルールって、縁の下の力持ちみたいなものだと思います。目に見える形がないし、目立つものでもないけれど、これに基づいているから、ちゃんと必要なときに必要な資料を利用者の皆さんが手にすることができ

る。
大事なことですね。とすると、ルーティンはない感じですか？

一年を通じての大きな流れはありませんが、毎日の決まったものはあまりないです。新しく導入するデータベースを検討したり、館内外からの相談や問合せに対応したり、資料の収集に関する調整役のようなところで、毎日飽きることはないです。

ところで、今まで「企画」とか「調整」とか似たようなイメージの部署に所属していますね。
そうなんです。収集企画係とか書誌調整係とか、四字熟語みたいですが、名前を聞いたただけだと何を

しているか想像しにくいですよ。ね。るところか想像しにくいですよ。ね。ざっくり説明すると、資料の大きな流れ、「集める」「整理する」「保存する」、そして「提供する」という中で、今は入り口の「集める」ところにいます。それまでは「整理する」に関係するところに比較的長くいました。書誌調整係では、資料の整理に必要な方針やルールづくりをしていました。実際に資料を整理したことはないんですけど、入館して最初

に配属された書誌調整課の時代もほぼ同じようなことをしていたので、あわせると7年半、資料の整理に関する相談を受けたり、調整をしたりしていました。扱う内容はぜんぜん違いますが、今いる収集企画係とも似ているところがあります。

あと、「電子」のつく部署も長いんじゃないかな。

関西館の電子図書館課と電子情報部の電子情報流通課ですね。こちらはあわせて7年間いました。研究企画係と標準化推進係にいたんですが、それぞれやっぱり「何してるところ？」とよく聞かれました。かきう私も最初は「何するところ？」と

思っていました。しかも「電子」がずっと、最先端のIT技術を駆使しているイメージを持たれることがありましたが、私のいた研究企画係では、主に資料を「保存する」をテーマに調査研究をしていました。紙の資料ではなく、形のない電子情報の長期保存が対象でしたが、これも資料の流れの一部といえます。

標準化推進係では、主な仕事の一つとして、メタデータ^②などの標準類を維持管理していました。こちらも電子情報が対象ですが、書誌調整係と同じく資料を「整理する」に関わる内容でした。そして、やっぱり電子情報の標準に関する相談を受けたり、調整をしたりしていました。

じゃあ、入館してからずっと、紙も電子も、資料の流れに関わり続けているんですね。

図らずもそのようです。
ところで、海外の活動にも参加されてましたよね？
IFLA^③目録分科会の常任委員として、2021年8月までの4年間、目録に関する国際的な標準や基準づ

くりをしていました。その中で、目録に関する概念や用語の多言語辞書を作るグループに入っていました。分科会では、委員の皆さんが世界中に住んでいるので、普段はメールでやりとりしていますが、新型コロナウイルス感染拡大以前からオンライン会議も年に何回か、多い時は毎月グループミーティングがありました。

ちなみに、英語での会議参加ですね……？

非常に大変でした。図書館の目録に関する共通のテーマがあるので、伝えたいという強い気持ちで語学力をカバーするしかなかったんです。強い気持ちがあれば言語の壁すら超えられると己に無理やり信じこませ、折れない心でいつも臨んでいました。英語ができたらもっと深い話ができるのにと痛感しています。

大変でしたが、話す言葉や住んでいる国は違っても、図書館に関する共通の目標や課題を持ち、日々がんばってる人たちが世界中にこんなにいるんだなあ実感でき、そんな方々と知り合えたっていうのは、本当に良い経験ができたなと思います

(2) 資料の検索や識別に必要な、タイトルや作成者等の資料の特徴を記述したデータ。

(3) International Federation of Library Associations and Institutions (国際図書館連盟)



す。世界の図書館でまさに今、進行形のプロジェクトや取組みも知れて、たくさん刺激を受けました。IFLAで仲良くなった人たちとは、今でも連絡を取りあっています。以前、シンガポールに観光を兼ねて会いに行ったこともあります。

いいですね！ところで、NDLに就職したいと思っただ理由は？

図書館という一つの大きな土台の上でいろいろな仕事ができると思った

からでしょうか。NDLは巨大な図書館で、さまざまなサービスを提供しているの、一見、いわゆる図書館ばくいなような仕事もたくさんあります。入館してから「こんなこともしているんだ！」と初めて知ったり。実はいまだに未知数で、異動するたびに転職したような新鮮さを味わっています。利用者の方と直接関わらないような、なかなか外からは見えにくい仕事も多いですね。NDLならば、ここでする仕事はすべて図書館という土台に繋がっていると常を感じられ、いろいろな仕事に出会えそうだなと。

図書館で働いていると、もともと図書館のヘビーユーザーだったとか、本が好きだったとか、そういうイメージを持たれがちですが、そうでもないです。むしろ、図書館に対して思い入れが強すぎると、仕事としてやりづらいこともあると思います。気になる存在ではあるけれど、好きすぎない。ちょうどよい距離感でいられるから、こうして仕事として続けられるんだと思います。

ある程度距離を保っていられるからこそ、適切なルールが作れるのかも

しれないですね。

そうですね。標準やルールは、客観的な判断が必要です。偏らないこと、バランス感覚が大事だと思います。これは、ルールづくりだけでなく、どんな仕事に対しても忘れないようにしてます。ただ自分がやりたからやる、楽しそうだからやる、ではなくて、何のために、という目的を見失わないことを常に心がけてます。たとえば、何か新しいサービスや事業を考えるときに、ちゃんと明確な目的を持つこと。それをやること自体がゴールではなくて、始めたら、ちゃんと続けることも必要で。今の「集める」仕事であれば、必要ときに、必要な資料や情報をちゃんと手に入れられるように、適切に定めた方針に基づいて着実に資料を集める。「必要なき」は今かもしれないし、ずっと先かもしれない。その「必要なき」のために日々つつこつと取り組んでいるのだと思います。

立派な心掛けです。では、ご趣味は。趣味とは違うかもしれませんが、私、観覧車が大好きなんです。

観覧車ですか!?

今はなかなか行けないんですけど、以前は「観覧車の観覧」が目的のお出かけをよくしていました。乗るのも好きですが、ただじっと眺めているのも好きなんです。いくらでも見られます。

素敵ですね！映画「第三の男」に出てくるやつとか？

ウィーンのプラター公園にある大観覧車 (Wiener Riesenrad) ですよ、乗りました。プラター公園には観覧車がもう1基あって、子ども向けっぽいのですが、大人だけでも乗れます。屋根も窓も壁も、覆うものが一切なくて、見晴らしがよいです。風で結構激しく揺れますが、これに乗りながら大観覧車を眺めるのは至福のひとつでした。ちなみにあまり知られていませんが、近所のハンガリーのブダペストにも観覧車があります。街中であってドナウ川も見えます。乗るとそこまで気にならないのですが、外から見ていると、日本に比べてかなり高速で回転していた気がします。

高速！日本で一番古い観覧車は？

現存する最古の観覧車は、北海道の函館公園こどものくににありま
す。もともと1950年に七飯町の
大沼国定公園に設置されたものが
1965年に移設されました。登録
有形文化財にも指定されています。

じゃあ、柴田さんの一番のおすすめ
観覧車は？

甲乙つけがたいですが、ヘルシンキ
の港にある観覧車です。白と青で統
一された清々しい姿に一目惚れしま
した。これに乗りたいためだけに、
ヘルシンキに何度も行きました。最
近では、サウナ付きのゴンドラが有
名です。

ヘルシンキに何度も！ しかもサウ
ナ付きですか!?

はい。できるだけ長く見ていたいの
で、日の長い夏のシーズンによく
行っていました。滞在中は何度も乗っ
たり、朝昼晩と表情が変わるので、
一日に何度も同じ場所から眺めてみ
たり。真横からもよし、あえて遠く
から眺めるのもよし。ちっとも飽き
ません。ゴンドラの中からは景色よ
りも回転する軸に目がいつてしま
います。ヘルシンキにはこれとは別に、

遊園地にも観覧車が2基あるので、
一石二鳥ならぬ一都市3基でお得な
街です。早くまた乗りに行ける日が
くるとよいです。サウナ付きゴンド
ラは最初はなかったんです。個人的
にはそんなもので話題性を作らなく
ても十分魅力的な観覧車だと思っ
ています。

見て愛らしいと感じるんですか？

大きさにもよります。函館公園のよ
うな小ぶりなのは愛らしいですね。
あのコロンとしたまるい形もいいで
す。あと、安定感があつて。ヘルシ
ンキの観覧車はサイズ感もちょうど
好みでした。ちょうどよく見上げる
ことができ。ロンドンとかシンガ
ポールにも乗りに行きましたが、こ

れらはカワイイというより壮観で
す。気持ちよいくらい巨大です。ち
なみに、さっきのIFLAで仲良く
なった人と会ったシンガポールも、
実は、そもそも旅の目的は観覧車で
した。

素晴らしく！ 海外の観覧車に
乗ってびっくりしたことかありま
すか？

巨大なものは1周30分くらいしま
す。日本だと長くて15分程度でし
うか。それだけ値段も高いんですけ
ど。あと、たまたまかもしれませ
んが、私が乗ったものは、1回乗ると
何周もすることが多かったです。日
本だとだいたい1周ですよ。しか
も、操作している人次第なのか、何

周するかアバウトなものも

え???

気になって「この観覧車は何周しま
すか？」って係の人に聞いてみたら
「3〜4周かな」って。今、Three
or four、って言ったよね？ え、決
まってるの?? と。ちなみに、
その時は4周しました。

乗るのも楽しいし、降りて眺めてい
るのも楽しい？

そうですね。乗ってよし。眺めて
よし。

安定して回転する観覧車を見ている視
点と、図書館のルールを見ている視点
似ているのかもしれないね。



上から、函館、ブダペスト（赤い服が柴田さん）、ヘルシンキ

韓国国立中央図書館とのオンライン業務交流

令和3年10月28日に韓国国立中央図書館（NLK）との業務交流をオンライン形式で実施しました。

初めに、基調報告として、NLKからはポストコロナ時代における運営戦略について、当館からは本年4月に公表した「国立国会図書館のデジタルシフト」についてそれぞれ報告し、質疑を行いました。次に、「両館のデジタルシフトに関する最近の動向」をテーマとして、NLKは、オンタクト（Ontact）サービスの拡充やデータキュレーションサービスの開発など、「デジタルサービス3か年計画（2021・2022・2023）」を中心とした取組について、当館は資料デジタル化の加速、デジタル資料の収集と長期保存、ジャパンサーチなどの取組について報告し、今後の課題や展望に關し活発な意見交換を行いました。



令和3年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会

令和3年11月16日、標記の懇談会が開催されました。

これは、各府省庁と最高裁判所に置かれた支部図書館の充実に資するため、支部図書館長等を招いて毎年行っているものです。昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止となりましたが、今回、オンライン形式で2年ぶりに行い、支部図書館25館、分館5館から、53名の支部図書館長、支部図書館職員が参加しました。

国立国会図書館（中央館）は、新しいビジョンである「国立国会図書館ビジョン2021・2025」国立国会図書館の「デジタルシフト」について概要を紹介するとともに、資料デジタル化及びWARPに関する取組を中心に報告しました。

また、福島幸宏慶應義塾大学文学部准教授が、「デジタル時代の政府情報と図書館の役割」と題する特別講演を行いました。デジタル時代の図書館の役割として、ウェブページ等を含む電子リソースをハンドリングし、統合的発見環境を整備するとともに、フローの情報をストックする機能を備えることが重要であること等について、示唆に富むお話がありました。

新刊案内

レファレンス 851号

公立学校生徒の言論の自由をめぐるアメリカ連邦最

高裁判決―学校の規制権限と修正第1条―

強制労働の禁止と兵役義務―日米の憲法規定の比較

を中心に―

オスプレイとは何か―主な論点を振り返る―

フランス議会における国政調査制度

ニージーランドの国民投票制度―概要及び広告規制―（資料）

制―（資料）

選挙供託制度（資料）



A4 163頁 月刊 1,100円(税込)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

数字で見る 国立国会図書館

『国立国会図書館年報 令和2年度』から

『国立国会図書館年報 令和2年度』をもとに、
国立国会図書館の業務、サービス、組織に関する
おもな数字を抜粋しました。

※数字は令和3年3月31日現在（令和2年度の実績）

国会へのサービス
依頼調査回答

3万5259件

国会議員等からの依頼に基づき、国政
課題や内外の諸事情に関する調査、法
案の分析・評価などを行っている。

国政課題に関する
調査研究

329件



行政・司法支部図書館へのサービス
貸出4355点

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に
支部図書館が設置されている。この図書館ネットワーク
をもとに、図書館サービス、資料の交換が行われている。

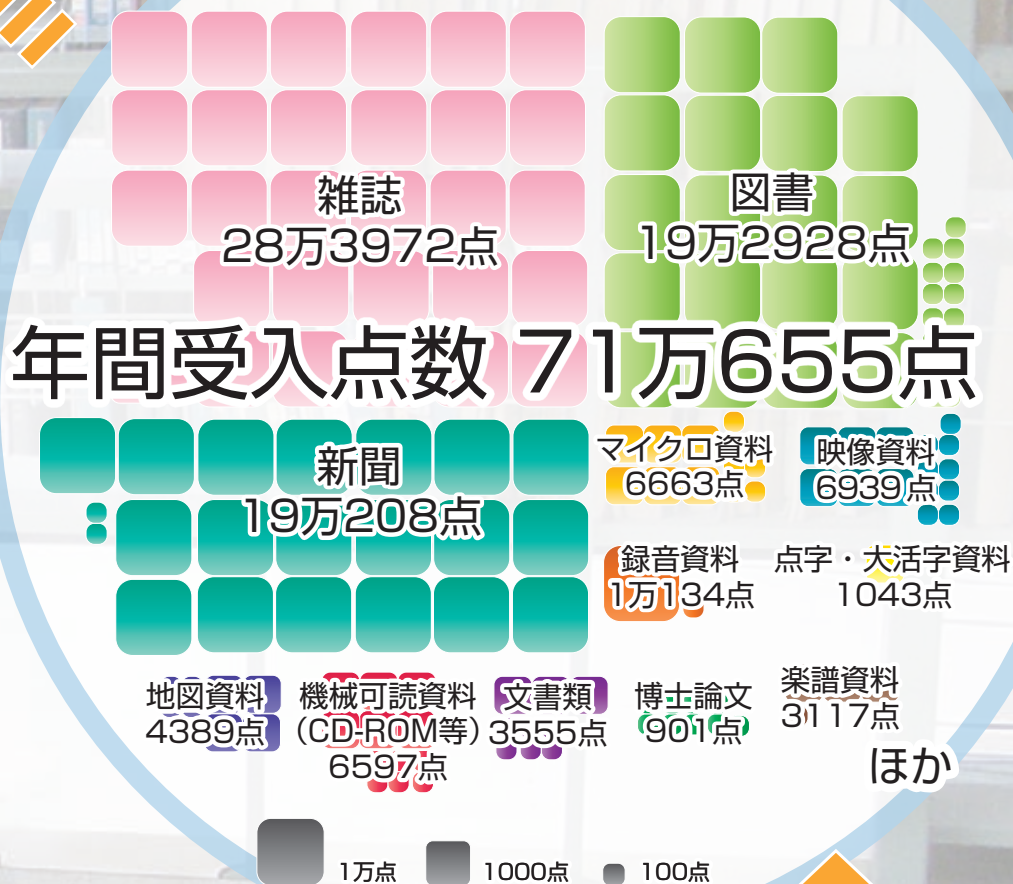
『国立国会図書館年報』は、ホームページでもご覧になれます。
<https://www.ndl.go.jp/publication/annual/index.html>

書誌データ作成数（年間）

54万8668件

書誌データ提供数（総計）

2649万709件



館全体の予算・決算

歳出予算現額
約278億3305万円

決算額
約197億5072万円

前年度からの繰越額約13億301万円
次年度への繰越額約73億6015万円

資料収集のための費用
約23億8249万円

うち、納入出版物代償金
約3億9748万円

デジタル資料点数

インターネット公開
169万8967点

図書館送信
152万9162点
図書館向けデジタル化資料送信
サービスの提供データ

館内限定
96万1922点

所蔵点数

4560万

9602点

インターネット
資料収集保存事業
収集データ件数

19万7446件

収集データ容量

2PB

ホームページへの
アクセス

3148万3468件

インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等
の各種データベース、調べものに役立つ情報などが
利用できる

国立国会図書館サーチで
統合検索できる書誌データ

1億1913万6449件

当館や他機関が保有する冊子体・デジタル化された画像・
音声等の様々な形態の情報を検索できる

- 東 東京本館
- 西 関西館
- 子 国際子ども図書館

来館者

26万3234人

- 東 15万5629人
- 西 5万9444人
- 子 4万8161人

閲覧

98万5939点

- 東 87万2940点
- 西 9万7798点
- 子 1万5201点

来館して申し込む閲覧サービス

来館複写

68万1363件

うちプリントアウト件数
33万1114件

来館して申し込む複写サービス

図書館等への貸出し

1万3979点

図書館への貸出し、小中学生向けの
学校図書館セット貸出し、展示会に
出品するための貸出しがある

遠隔複写

31万1539件

来館せずに申し込む複写サービス

職員数

892人

男性 49.3%
女性 50.7%

管理職のうち女性の割合
約 33.7%

建物延べ面積

24万6284㎡

東 14万7853㎡
国会分館 1331㎡

西 8万4339㎡
子 1万2761㎡

書庫面積

12万578㎡

7万7829㎡
609㎡

3万9026㎡
3114㎡

閲覧室面積

2万5864㎡

1万8983㎡
562㎡

4265㎡
2054㎡

1

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.1

NO.729

JANUARY
2022

CONTENTS

New Year Greetings for 2022

- 03 <Book of the month - from NDL collections>
The Compleat Bookman Dard Hunter's *Old papermaking in China and Japan*
- 08 Strolling in the forest of books (26)
Browsing Joruri books with YOSHINAGA Motonobu, NDL Director
General
- 18 Protecting our books—Tools for preservation and restoration
(3) Pressing
- 26 Working at the NDL, Season 2 Episode 4
- 31 The NDL in figures: from the Annual Report of the NDL, FY2020
- 30 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和4年1月号 (No.729)

令和4年1月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 松浦 茂

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 2 . 1

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六